

私が担当します

"整形外科に常勤医師として着任"

5月から本格的に手術再開

川崎協同病院整形外科部長の井形聡です。2023年4月から佐藤純基医師とともに常勤医師として当病院に赴任しました。

整形外科は骨、軟骨、筋、靭帯、神経など運動器を構成する組織の疾病、外傷を扱い、対象部位が広範囲で患者の年齢層も広がっています。当病院の掲げる急性期医療から在宅復帰までシームレスな地域包括医療を実践するためには地域の基幹病院、大学病院、理学療法を行う施設、整形外科クリニックと連携し、治療に取り組む必要があります。

診療を行う中で、患者さんからの当院に対する信頼は厚く、期待が大きいことを知りました。これまで診療を続けてきた堀内静夫医師、原弘明医師、そして渡邊健一医師のご尽力の結果だと思います。諸先輩方によって構築してきた整形外科の伝統を守る使命があり身が引き締まる思いです。

新しい整形外科スタッフを紹介します。月曜日外来担当は魚住芳史です。笑顔で、やさしく丁寧に、患者さんに接しています。火曜日午前は私、井形です。四肢外傷、二次骨折予防を中心に、可能な範囲で良性骨軟部腫瘍、転移性骨腫瘍の治療を進めていくつもりです。新しい趣味を模索しています。

火曜日午後は佐藤です。四肢外傷だけでなく膝、股関節の人工関節手術にも積極的に取り組んでいます。多趣味、博識でコミュニケーション能力に長けていて話は尽きません。水曜日は福武勝典で、脊椎・脊髄疾患が専門です。内視鏡手術が得意で、ユーモアと率先力がありスタッフのモチベーションも上がります。木曜日は石垣洸征です。肩関節疾患が専門で、肩関節脱臼で悩んでいる患者さんがいたら紹介してください。いつも元気で親しみやすいキャラクターです。金曜日は中村一将です。脊椎・脊髄疾患が専門ですが、関節疾患や四肢外傷など得意分野は広く、なんでもこなします。

いつも沈着冷静で頼りになります。

私たちは2022年4月から非常勤医師が週に1日、手術治療を行っていましたが、2023年4月からは週に2日の手術枠を確保しているので、まずは得意とする大腿骨近位部骨折を含む四肢外傷に対する手術、脊椎・脊髄疾患に対する手術、人工膝、股関節置換術を中心に手術治療を拡大していきたいと考えています。

組織の一員としては、他科、コメディカルとの間に垣根をつくらぬ整形外科、地域にやさしい整形外科を目標に日々精進してまいります。

みなさん、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



整形外科部長 井形 聡 医師
1996年 東邦大学卒

日本整形外科学会整形外科専門医
日本整形外科学会認定リウマチ医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
日本整形外科学会認定
運動器リハビリテーション医
日本医師会認定産業医





予防から治療まで、家庭医の診療所として

JR南武線久地駅から徒歩3分、駅の下りホームからも見える久地診療所は、川崎医療生協の川崎北部地域の拠点です。診療所前の道路は桜並木が広がり、春には満開の桜を楽しめます。

訪問すると、職員会議を終えたスタッフのみなさんが出迎えてくれ「せっかくの機会だから」と玄関前で一緒に写真におさまりました。和気あいあいとした雰囲気の中、広々とした診療所内を案内してもらいました。

家庭医療（総合診療）を学べる

久地診療所は、総合診療専門医が制度整備される以前の2009年から家庭医療の専門医を育成する教育診療所として研修を実施してきました。2022年度在籍の後期研修医を含め、これまで10人の家庭医療（総合診療）専門医を育ててきました。

所長の喜瀬守人医師は日本の家庭医療専門医の先駆けとして、多くの研修医を育てながら、久地診療所を子供からお年寄りまでを診る診療所に作り上げてきました。喜瀬所長が着任してからは小児科診療を拡充し、在宅管理もより拡大して地域に必要な医療を充実させつつ、研修医が広く学べる環境を整備してきました。



医療と介護・福祉の連携を強化

2021年2月に、訪問看護ステーション・ケアプランセンター・ヘルパーステーションが、久地診療所と同じ建物内に「くじ在宅サポートセンター」として稼働しました。同じ建物内には地域包括支援センターもあります。またもともと川崎医療生協が運営する介護老人保健施設「樹の丘」も隣接していて、在宅医療・介護の相互連携が強化されました。

川崎市北部の地域包括ケアを担う診療所として、地域住民の頼りになる存在になっています。川村美和子看護部長は「サポートセンターと連携して包括的に患者さんをサポートできる診療所にしていきたい」と熱意を示します。

予防から治療まで

久地診療所では一般的な健診に加えて、マンモグラフィー、胃カメラ、バリウム、エコーを用いて乳癌検診・子宮癌検診など総合的な健康診断を受けられます。「昨年度はエコーを新調、これから婦人科外来枠の拡大を目指します。レディース健診が久地診療所の目標のひとつ」と木下望事務長は意気込みます。

喜瀬所長は産業医として、地域の事業者の予防活動にも一役買っており、そのつながりで事業所健診や障害者施設の集団健診にも取り組んでいます。

家族をまるごと診る意義

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るったこの数年で、家族をまるごと診ることができる久地診療所の強みが改めて知られました。「子どもがかかるとその家族も次々と罹患する。小児もお年寄りも対応できることで早期対応ができた事例も多々あった」とスタッフは話します。

「赤ちゃんからお年寄りまで」「子連れで来られる健康診断」「子育てママパパも安心して受診に来られる」など、スタッフから次々に、診療所のキャッチコピーが出てくる活力ある職場でもあります。